2018年4月23日（月曜日）の日本海事新聞に
商船三井様にご協力頂いた海外支援活動について紹介されました！

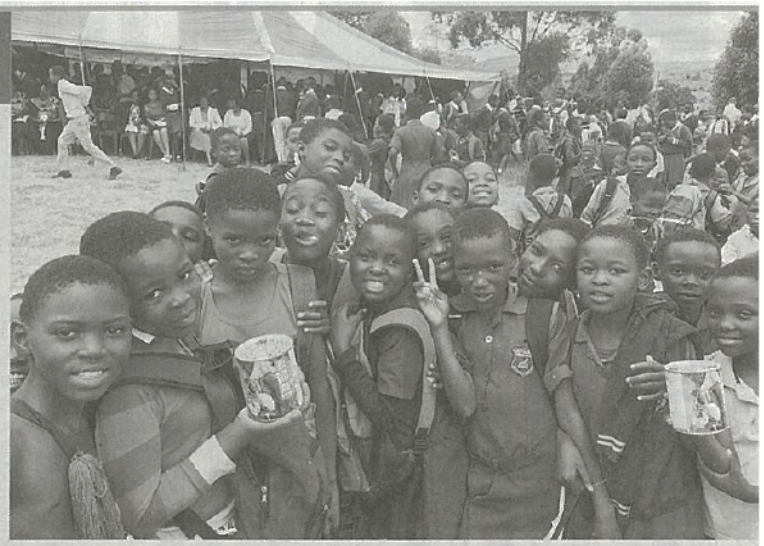
2018年（平成30年）
4/23 月
第20705号
日刊（土曜・日曜・祝日休刊）
昭和17年12月28日第3種郵便物認可

日本海事新聞
THE JAPAN MARITIME DAILY
発行所 日本海事新聞社 本社 〒105－0004 東京都港区新橋5－19－2 ©日本海事新聞社 2018

商船三井

パンの缶詰 南アに海上輸送

「救缶鳥」プロジェクトへ協力



缶詰を手にし、笑顔を見せるスワジランドの子供たち

商船三井は18日、パン・アキモト（本社・栃木県那須塩原市、秋元義彦代表取締役）の飢餓対策支援活動「救缶鳥プロジェクト」に北越コーポレーションと共に協力し、パンの缶詰約1900㌧（2万8500個）を日本から南アフリカのリチャーズ・ベイまで無償で海上輸送したと発表した。缶詰はTWK社を通じて、スワジランド赤十字に届けられ、現地の学校で配布された。

同プロジェクトは、パン・アキモトが2009年から行っている取り組み。3年の賞味期限がある防災備蓄用のパンの缶詰「救缶鳥」を販売し、賞味期限が残り1年になると同社が下取りして、飢餓地域や災害被災地に無償で提供している。これまで東日本大震災や熊本地震などで被害を受けた自治体や、ハイチやタンザニアなど海外の国々に缶詰を送り届けてきた。

商船三井は15年から缶詰の無償輸送を実施。南アフリカ航路の木材チップ運搬船を使用し、これまでに4回、合計約5000㌧（7万5000個）の缶詰を運んだ。

救缶鳥プロジェクトについて、パン・アキモトの秋元信彦取締役は「国内では大規模災害に備えて食料の備蓄が必要である一方、海外では飢餓がまん延している国がある。こうした状況を両方解決する手助けをしていきたい」と話す。

スワジランドへは今後も定期的に缶詰の提供を行う計画で、今年度は6月、10月、そして来年2月に現地で配布する予定。